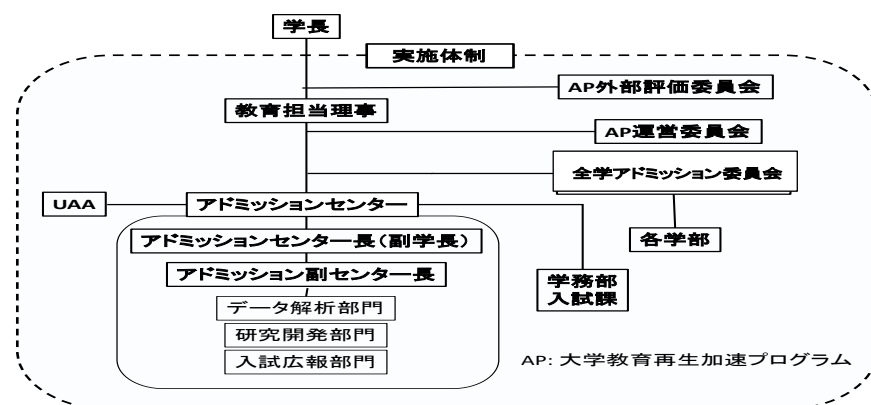


進捗状況の概要（2 ページ以内）

① 大学改革の加速

国際バカロレア（以下、IB と称する）修了生は、グローバル人材として活躍するために必要な資質と経験を備えている。本事業の実施によって、今年度は IB 修了生が 7 学部・コースに 33 名在学している。これらの入学者は、本学のグローバル教育活動において、中心的な役割を果たす人材として活躍しており（異文化交流カフェ・チューター、英語ゼミ・リーダー、模擬国連・国際討論会などへの参加）、IB 入試以外で入学した学生への影響、留学生との深い交流などを通して、スーパーグローバル大学である本学の目標（世界で活躍できる「実践人」の育成）に大きく貢献している。

② 事業の実施体制



③ 事業の実実施計画・継続性

国内の IB 認定校は着実に増加してきているが、高学歴のエリート養成のための特別なプログラムと評されることもある。そこで、IB 教育を公立高校を含めて広く普及させていく視点から、米国シカゴ市で公立の教育困難校に IB 教育を導入した担当者や日本と米国の高等教育の研究者を招いて「教育に枠はないーIB for everyone」をテーマにシンポジウムを開催（平成 30 年 9 月 7 日）し、IB 教育をさらに広く導入・普及するために、どのような活動をしていけば良いのかなどについて討論を行い、その方向性を提言した。また、このシンポジウムと連動して「低所得世帯の学生に TOK を教えることの意味」（※TOK: Theory Of Knowledge=知の理論）と題したワークショップを開催（平成 30 年 9 月 9 日）し、多面的な思考力を育む TOK が多様な生徒を対象にどのように教育実践されているかを学んだ。

さらに、IB 校認定に関わる確認訪問調査のコンサルタント担当者を招いて、IB の初歩から実践までの質問に答えるセッションを開催（平成 30 年 7 月 4 日）し、IB についてのよくある質問や IB 校認定に向けての実質的な問い合わせに答えた。

④ 事業成果の普及

IB 教育の調査・研究の面では、IB 教育がめざす学習者像について、国内の Super Global High School における指導との共通性について検討した。この調査を含め、研究の結果は、日本 IB 教育学会などの関連学会で発表したほか、教育系専門誌（Advances in Social Sciences Research Journal）に投稿し、関係者に研究成果を広く情報伝達した。また、平成 29 年度に引き続き、教養教育用に編纂した TOK のワークブックを使ったワークショップを 2 回開催し（参加者 80 名以上）、IB 教育の根幹をなす思考法とその教育法の普及を進めた。

⑤ 選定されたテーマの取組を中核にした総合的な大学教育改革の取組

既に教養教育科目として実施している TOK に加えて、IB 教育の別のコア科目である CAS（Creativity, Action, Service）について教育手法を習得し、令和元年度から教養教育科目として開講する準備を進めた。